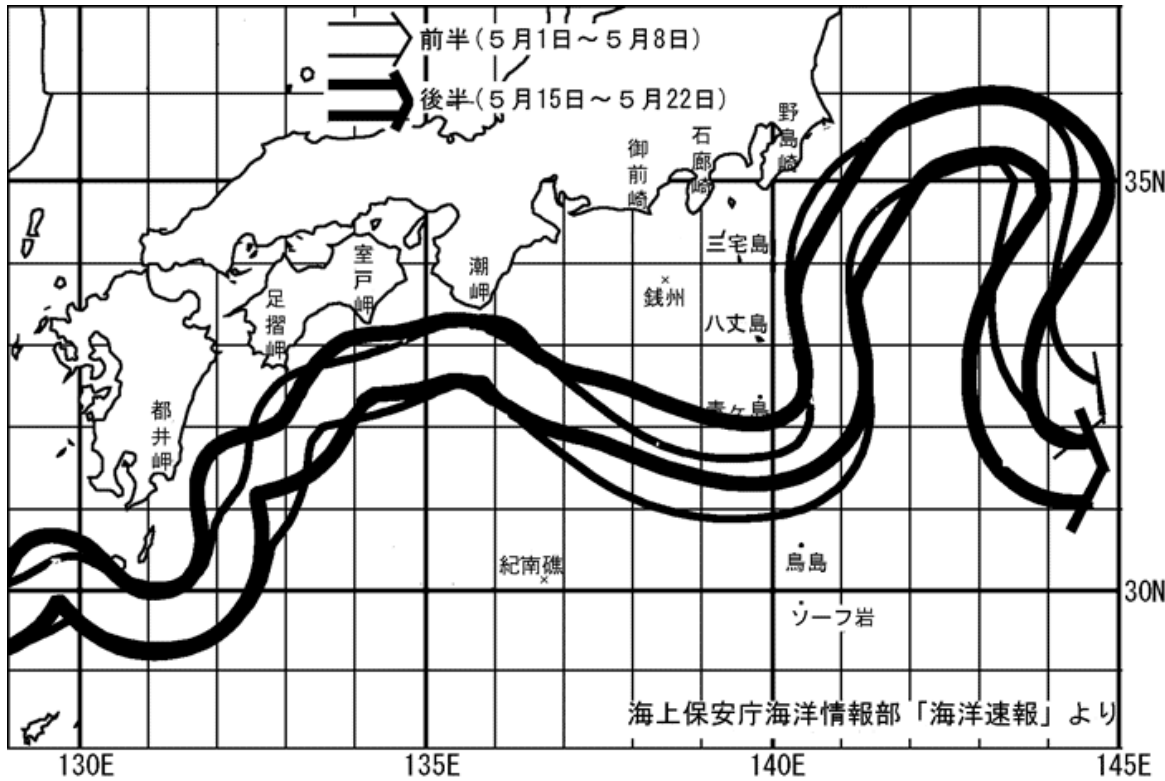


漁海況月報

平成19年5月1日

No. 5 ~ 5月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	16.6	17.0	16.9	17.8	18.2	17.7	16.9
	-0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.2	-0.4
中旬	17.8	17.9	17.9	18.7	18.9	18.2	17.6
	-0.1	0.4	0.3	0.1	0.0	-0.2	-0.5
下旬	19.0	18.4	18.3	19.1	20.0	19.4	18.6
	0.1	0.2	-0.1	-0.3	0.4	0.1	-0.5
月	17.8	17.8	17.7	18.6	19.1	18.5	17.7
	-0.1	0.3	0.1	-0.1	0.2	0.1	-0.5

【黒潮流路】

前半、黒潮は九州東岸においてやや離岸傾向を示したが、足摺岬から潮岬にかけては接岸し、潮岬から南東に流れた。その後、野島崎沖 31° 30' N 付近まで離岸した後、青ヶ島を迂回して伊豆列島東側を北上した。

後半には、黒潮は九州東岸から潮岬にかけて概ね接岸傾向を示し、潮岬から東南東に流れた。その後、野島崎沖 32° N 付近まで離岸した後、伊豆列島線東側を北上した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾では 16~19°C 台、駿河湾東部では 17~20°C、西部では 16~19°C 台で経過した。上、中旬にかけて黒潮北上部からの暖水波及が伊豆諸島南部に見られたが、本県沿岸への顕著な波及はなかった。このため、上旬の伊東、中下旬の地頭方がやや低めであったのを除き、各地とも概ね平年並で経過した。

【竿釣近海カツオ】

5月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は541トンド前年同期の164%であった。魚価は248円/kgで、前年同期を大幅に下回った。

静岡県船は 33~34° N、142~143° E で小中トンボ（カツオ混じり）を中心に漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量（県内主要5港）

期間	水揚量 (ト)	水揚隻数	水揚/隻 (ト)	平均単価 (円/kg)
19年5月上旬	34	8	4.3	622
中旬	457	14	32.6	206
下旬	51	10	5.1	387
19年5月計	541	32	16.9	248
18年5月計	330	45	7.3	487
17年5月計	961	156	6.2	370

【定置網】

平成19年5月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は581トンド、操業がなかった赤石を除く1漁場当たり水揚量83.0トンドは前年74.6トンド（7漁場）の111%、平年値（昭和57~平成18年）57.3トンドの145%であった。

魚種別漁獲量は、①マアジ240.4トンド（A：前年同月比107%、B：平年同月比131%）②サバ類130.7トンド（A：58%、B：111%）③カタクチイワシ106.2トンド（A：323%、B：353%）④スルメイカ24.2トンド（A：261%、B：176%）⑤ワラサ20.5トンド（A：279%、B：246%）の順であった。

マアジは川奈、北川を中心に入網し、尾叉長のモードは18~20cmと23cmにみられ、1歳魚と2歳魚中心と考えられた。サバ類はゴマサバが主体であるが4割程度マサバも混じり、ゴマサバは北川、谷津、富戸を中心に入網し、マサバは川奈、古網、北川を中心に入網した。尾叉長のモードはゴマサバが36cm、マサバが37cmにみられ、ともに平成16年の卓越年級群が中心と考えられた。カタクチイワシは古網を中心に入網し、昭和58年以降で2番目に多く漁獲され、被鱗体長のモードは12cmにみられた。スルメイカは北川、谷津を中心に入網し、外套背長のモードは21cmであった。

ワラサは川奈、北川を中心に入網し、尾叉長のモードは68cmにみられた。

漁場別水揚量は、川奈158トン(マアジ、マサバ、ワラサ中心)、古網127トン(カタクチイワシ、マアジ、マサバ、ゴマサバ中心)、北川108トン(マアジ、ゴマサバ、マサバ、スルメイカ中心)の順であった。

[サバたもすくい棒受網]

小川港にはたもすくい、棒受網によってマサバ153トン、ゴマサバ544トンが水揚げされた。棒受網の漁場は、中旬前半まで三宅島周辺に、後半以降、中ノ瀬(渡り)に形成された。たもすくいの漁場は、上旬までは利島、中旬からは大室出し周辺海域に形成された。棒受網では尾叉長29~32cmのゴマサバ主体に、尾叉長33~35cmのマサバがわずかに混獲された。また、たもすくいでは、尾叉長32~35cmのマサバ主体に、尾叉長28~31cmのゴマサバが1~7割程度混獲された。1kg当たりの平均単価はマサバでは128円、ゴマサバでは72円であった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成19年 上旬	212	4	12	17.6	三宅、利島
5月 中旬	218	4	13	16.8	三宅、中ノ瀬(渡り)、大室出し
下旬	267	6	15	17.8	中ノ瀬(渡り)、大室出し
計	697	14	40	17.4	-----
平成18年5月	859	10	23	27.7	三宅、利島、大室出し
平成17年5月	1,530	14	72	21.2	三宅、高瀬、銭洲

[サクラエビ船曳網]

5月は10日出漁し、水揚量は721トンと前年同月を下回った。漁場は、上旬と中旬は主に沼津沖に形成され、下旬は主に由比沖に形成された。水揚げされたサクラエビは、体長36mmにモードを持つ当歳エビを主体として、体長42mmにモードを持つ1歳エビとの2群で構成された。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	1日1か統当り (kg)	漁 場
平成19年5月 上旬	187	2	平均 1,563	沼津沖
中旬	232	3	平均 1,288	沼津沖
下旬	302	5	平均 1,007	由比沖
平成19年5月 計	721	10	平均 1,202	—
平成18年5月 計	844	10	平均 1,406	由比~沼津沖
平成17年5月 計	716	10	平均 1,193	興津~沼津沖

[シラス船曳網]

1日1か統当りの漁獲量は、駿河湾では642kg、遠州灘では840kgで、主要6港平均では793kgと前年同期(327kg)の2.4倍、平年同期(過去5か年平均:277kg)の2.9倍と前年及び平年を上回った。また、総水揚量は2,400.4トンで前年同期(781.5トン)の3.0倍、平年同期(707.5トン)の3.4倍と、前年及び平年を大きく上回った。平均単価は475円/kgと平年同期(796円/kg)を下

回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統・日)	平均単価 (円/kg)
新 居	244.9	21	291	842	396
舞 阪	991.4	21	1,025	967	470
福 田	533.7	20	540	988	561
御前崎	171.1	18	454	377	385
吉 田	347.5	17	427	814	434
静 岡	111.9	15	289	387	536
平成19年5月計	2,400.4		3,026	793	475
平成18年5月計	781.5		2,390	327	769
平成17年5月計	1,009.3		2,957	341	758

[まき網]

小川港ではマイワシが3.9トンの水揚げで平年同期(3.8トン)並みであった。沼津港では、マイワシが5.6トン(平年同期3.9トン)で、カタクチイワシは32.7トンの水揚げであった。静岡港ではマイワシの水揚げはほんの僅か(平年同期3.8トン)で、カタクチイワシは594.3トンと平年同期(191.8トン)を上回った。

注) 平年同期: 過去5か年(2002~2006年)平均

[調査船の動向]

富 士 丸

5月1日 ~ 5月31日 焼津港碇泊中 (31日間)

駿 河 丸

5月7日 ~ 5月9日 地先観測(駿河湾、遠州灘) (3日間)
 5月10日 ~ 5月10日 サバ調査(駿河湾) (1日間)
 5月15日 ~ 5月15日 マリンロゴ調査(駿河湾) (1日間)
 5月16日 ~ 5月17日 トラフグ調査(駿河湾) (2日間)
 5月21日 ~ 5月22日 サバ調査(駿河湾他) (2日間)
 5月28日 ~ 5月29日 マリンロゴ調査(駿河湾、相模湾) (2日間)
 5月31日 ~ 6月1日 サバ調査(駿河湾他) (2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/imode/index.htm>
 右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAによる海面の水温分布画像を見ることができます。

